

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2019年 4 月 19 日 提出

1. 研究課題名	
アート・リサーチセンター番付ポータルデータベースを活用した興行番付のグローバルアーカイブ構築研究 (英文標記: Research on Construction of Global Archive of Playbill by Utilizing Art Research Center Banzuke Portal Database)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
倉橋 正恵(くらはし まさえ)	立命館大学 衣笠総合研究機構・プロジェクト研究員
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
金子 貴昭 (かねこ たかあき)	立命館大学衣笠総合研究機構・准教授
青山 いずみ (あおやま いずみ)	立命館大学文学研究科・研修生
宮崎 紗帆 (みやざき さほ)	立命館大学大学院文学研究科・博士課程前期課程 1 回生

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>江戸時代の演劇や相撲、見世物などの興行で、宣伝のために作成されるポスターやチラシ、パンフレットなどを指して「番付」と呼ぶ。番付は宣伝効果を狙うために、興行が始まる前から大量に制作され、広く配布・販売された。これらは分野ごとに膨大な数が残存しているが、ほとんど整理されることがないままに残されているというのが現状である。番付は興行そのものを直接に記録した第一次資料であり、またその残存数の多さから、ビッグデータ型の文化史資料群としての価値を持つ。本研究では、日本各地、あるいは世界に散在する番付について、アート・リサーチセンターが浮世絵や古典籍で展開した方法と同様の手法を用いて、番付をデジタル撮影すると同時に番付に記載されている興行情報もデータベース化する。このことにより、これまでに存在しえなかった大規模な興行年表データベースの構築を目指すものである。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

2018 年度には、歌舞伎研究者が所蔵する上方芝居番付を中心とする番付コレクション約 390 点、及び役者評判記や歌舞伎台帳、役者絵等の貴重な歌舞伎関係資料のデジタル撮影を行った。また、先の個人所蔵者とは別の歌舞伎研究者が所蔵する番付コレクション約 3300 点について、既にデジタル撮影がされていながらも、考証・整理については未着手であった。そのため、番付ポータルデータベースへデジタル画像を組み込むと同時に、考証データの入力に着手し始めた。

さらに、研究代表者によるボストン美術館(アメリカ合衆国・マサチューセッツ州)所蔵番付調査を行った。この調査での研究成果は、アート・リサーチセンターの番付ポータルデータベースに反映させると共に、ボストン美術館へのデータの提供によって、同館で公開している所蔵品データベースにも反映されている。

6. 研究業績

(1) 著書

- ・『未翻刻戯曲集 25 木下曾我恵口路』、共著、2019 年 3 月、日本芸術文化振興会、国立劇場調査養成部編、執筆者：岩井眞實・埋忠美沙・倉橋正恵・佐藤かつら・寺田詩麻・日置貴之、担当頁数 pp. 131-162
- ・『歌舞伎評判記集成 第三期 第二巻』、共著、2019 年 2 月、和泉書院、役者評判記刊行会編、執筆者：黒石陽子・倉橋正恵・水田かや乃・野口隆・齊藤千恵・光延真哉・池山晃・佐藤かつら・田草川みずき・神楽岡幼子、担当頁数『役者男風流』pp. 113-159、『役者男風流(解題)』pp. 491-492、『役者大矢数』pp. 445-486、『役者大矢数(解題)』pp. 499-500

(2) 論文

(3) 研究発表等

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

- ・「歌舞伎興行と近世出版商業活動における連動性についての発展的研究」、基盤研究 C、平成 29 年 4 月 - 平成 32 年 3 月、役割(代表)

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他